

## 研究計画概要書

研究課題名		看護学生を対象とした Web 教材を用いた 呼吸音聴取教育方法の有用性の検討
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部医学系研究科 看護学専攻 基礎・臨床看護学講座・教授・山内豊明
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学系研究科 看護学専攻 基礎・臨床看護学講座・博士課程前期課程・二宮菜名恵
	共同研究者 (所属・職名・氏名)	
	研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学医学部医学系研究科看護学専攻 愛知県名古屋市中区大幸南1-1-20 山内豊明教授研究室
研究の意義・目的		<p>呼吸音聴診に関する教育には座学の他に CD 音源やシミュレータを用いて演習が行われ、シミュレータを用いた学習効果は学生、看護師を対象とした有用性を示す研究が行われてきた。また、呼吸音聴取は繰り返し練習を行うことで技術が身につくことが明らかとなっている。しかし、シミュレータは高価で台数が限られており十分な演習時間を確保できない、使用できる場所が限られる、などの問題点もあるため、多くの学習者に対応するには現実的ではない。そのため多くの学生にとっては呼吸音聴取技術を授業で学習したのちに復習する手段は CD 音源や参考書しかない。しかし、CD 音源においてはその有用性が示されている研究はない。呼吸音聴取技術を確実に習得するために、学生が時間や場所を選ばずに繰り返し自己学習が行え、かつ効果的に学ぶことができる教材が必要であり、その有用性を検証することが必要であると考えられる。</p> <p>本研究の目的は呼吸音聴取技術向上のために新たに開発をした教材を使用し、従来の学習法である紙媒体の教材を使用した学習と比べ呼吸音聴取テストの得点を比較することで呼吸音聴取についての効果的な教育方法の可能性を検討することである。</p>
主な選択基準		<ul style="list-style-type: none"> <li>・4年制大学に通う看護学専攻の学生。</li> <li>・フィジカルアセスメントの授業を終了し、領域別臨床実習を行っていない者。</li> <li>・協力大学の選定はスノーボール方式でリクルートを行う。</li> </ul>

研究方法（多施設共同研究の場合は、 本学の役割・目標症例数も記載）	生体シミュレータを用いて呼吸音聴取プレテストを行う。研究対象者を対照群、実験群A、実験群Bに分ける。テストの点数が同様となり対照群、実験群A、実験群Bの人数が同じとなるように無作為にグループ分けをする。実験群Aには新たに開発した Web 教材を使用し自己学習を行ってもらおう。実験群Bには紙媒体の教材を使用し自己学習を行ってもらおう。対象群には介入は行わない。約 2 週間後に被験者全員に呼吸音聴取ポストテストを行う。
研究期間	承認日より平成 30 年 3 月 31 日まで
インフォームド・コンセントの方法（説明を行う者等）	説明は研究実施者である二宮菜名恵が行う。口頭と文書により説明した上で任意での協力を依頼する。
個人情報の管理体制（個人情報管理者、 連結表の管理体制等）	個人情報管理者は名古屋大学医学部医学系研究科看護学専攻教授、山内豊明である。 個人情報とテスト結果の資料の管理は、施錠可能な名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻本館 5 階 503 号室基礎看護学ゼミ室 5 にて行う。 また、被験者一人ひとりに ID を割り振り、得られたデータを連結可能匿名化した上で、施錠可能な棚にて保存する。その際、連結表は個人情報とデータを保存するとは別の、施錠可能な棚に保存し、どちらも研究関係者以外は閲覧できないように配慮する。
研究で収集した試料・同意書の保管場所、 研究終了後の試料の取扱い	施錠可能な名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻本館 5 階 503 号室基礎看護学ゼミ室 5 で保存する。資料と連結表はそれぞれ別の施錠可能な棚に保存し、関係者以外は閲覧できないようにする。今後の研究に試料を使用する可能性があるため、保存期間は設けない。
効果安全性評価委員会 （委員の職名・氏名・審査間隔）	※侵襲を伴う研究の場合に記入
被験者に重篤な有害事象が生じた場合 の対処方法	※侵襲を伴う研究の場合に記入

※この概要書は、HP 等で公開されることを前提に作成し、原則として A4 2 枚以内に収めること。

※共同研究の場合、本学の役割・研究体制が分かるように記載すること。